

日本共産党船橋議員団

ミニにゅす

日本共産党国会議員団千葉事務所 ☎043-302-2005
 県会議員 丸山 慎一 ☎047-424-6347
 <市議団控室☎436-3030 FAX420-7201>

市会 議員
 石川敏宏 ☎462-4548 事務所☎467-2860
 岩井友子 ☎438-8647 事務所☎429-2160
 金沢和子 ☎422-5278

佐藤重雄 ☎432-9872
 関根和子 ☎447-0557 事務所☎440-7950
 中沢 学 ☎493-8140
 渡辺ゆう子 ☎462-7273

市民アンケートへのご協力ありがとうございました

日本共産党市議団の「市民アンケート」には、現在1600通近くの回答をいただきました。ご協力に心から感謝申し上げます。

10月までに寄せられた1400通について「2014年度予算要望書」にまとめ、12月20日、松戸徹市長に提出、要望実現を申し入れました。

要望書

に載せきれなかつた項目については、それぞれ地域担当議員が現地を調査し、改善にとりくんでいきます。



昨年12月20日、市長に要望書を提出

若い世代から不安の声

アンケートには、「くらしの不安」が多く寄せられました。若い世代の声を紹介します。

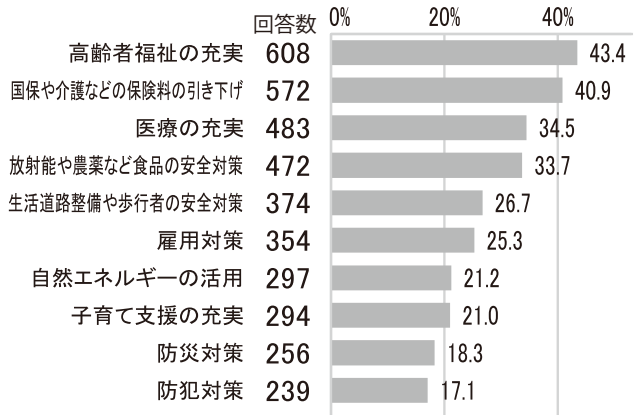
○40代、非正規労働者です。一生懸命働いても年収は200万円以下、仕事が増えても給料は変わらず。2人目の子ども幼稚園入園を控え、さらなる節約を模索中。

○20代独身。給料も少なくボーナスもなく、家賃と生活費で消えてしまします。結婚し、子どもをつくり育てるといふ未来に不安しかありません。

○福祉施設で働いています。やりがいと使命感をもって働いていますが、30代で手取り18万円の給料。先の生活・結婚を考え、不安でいっぱいです。

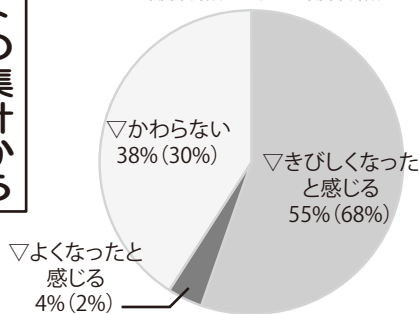
○私の子どもは待機児童です。無認可保育園も申し込んでおかなければ、4月からの職場復帰に備えられません。「入園予約料と1か月の保育料」の7万円が必要で、認可保育園に入れた場合、お金はもどきません。

優先的に実施してほしい政策（複数回答の集計）



暮らしについて、去年と比較してきびしくなっていると感じますか

()内は昨年
 2014年度集計数1400、2013年度集計数813



アンケートの集計から

科学を大切に

被害からまもろう船橋の海

三番瀬

三番瀬は、海苔の養殖、アサリや最近ではホンビノス貝の発生などで、漁場として高い価値があることで知られています。この海域には、ダメージを与える2つの要因があります。

一つは、江戸川上流の大雨などで、放水路を伝って大量の淡水が

青潮はどうして発生するのか

三番瀬に移動してくる青潮の発生場所で最大なところは、幕張や浦安などの埋め立てに使った海底の土を取った跡の窪地であることは分っています。

海面から7メートルくらいの浅瀬に、サンドポンプの吸水ホースの先を差込み浚渫し、落差が30メートル、縦横がそれぞれ数百メートル、容量1億立方メートルの窪地がつけられました。40年近く経過した現在でも、その海底の

流入し「塩分の低下」で魚介類が死滅すること。

もう一つが、「青潮」の流入で、アサリなどの死滅を繰り返していることです。その度に稚貝などを取り寄せて蒔き、回復に努めてきたのです。

壁はほとんど崩れていません。

その巨大な「窪地」に有機物が沈殿し、それが分解される過程でバクテリアが海水の酸素を使い果たして「貧酸素水」となります。窪地底部の海水は干満の移動からも取り残され、そこに溜まったままとなっています。

秋口などに北風が吹き続けると、表面の海水が東京湾口の方に押しやられ、海底の「貧酸素水」が海底の面に沿って表面に引き上

げられ、「青潮」となって横に移動し、三番瀬に流れてくるという

のが、青潮被害の基本的なパターンです。

浚渫窪地をなくすには？

窪地をなくせば貧酸素水を無くせますが、穴を埋めるには一山なくすほどの土が必要で、環境破壊と巨額な費用がかかります。また、この窪地を東京港の航路浚渫のヘドロの捨場にする動きがあり、

すでに一部2千300万立方メートルのヘドロが捨てられました。このヘドロには高度成長期に東京湾に流入した「環境毒物」が沈殿している可能性もあり、さらに汚染が拡散するおそれがあります。

解決の切り札

マイクロバブル・ナノバブル

貧酸素水に大気中の酸素を移動

させれば、貧酸素ではなくなります。それを効率的に行なうのが、空気の気泡を「マイクロ」とか「ナノ」と形容する微小の気泡にして海中に放出する方法です。

微細な気泡は、海中を漂い、海面に浮き上がるまでの時間が長く、空気中の酸素をほぼ100%の効率で海水に移動させることができます。すでに瀬戸内海域などで牡蠣の養殖場で酸素濃度が低下した際などに実用化もされて

いるものです。

深さ40メートルまで空気を送るにはそれなりのエネルギーが必要ですが、太陽光と風力で、小規模のシステムを一定の数設置する方法が適しています。

12月議会で、青潮対策としてこの方法を大学などと共同研究するよう提案しました。市長は「検討はしたい」と答弁しました。

※マイクロは10のマイナス6乗 10^{-6} 、000001、ナノは10のマイナス9乗 10^{-9}